

# 公益財団法人わかやま地元力応援基金

## 平成 25 年度 事業報告

### 【概要と成果】

平成 25 年度は、一般財団法人の設立以降、検討をすすめてきた様々なプログラムを実施してきた。

当財団の中核である事業指定助成プログラムは第 1 期採択事業を募集し、コンサルティングや寄付者管理といった事業基盤を整理してきた。わかやま子ども未来基金と和歌山県災害復興基金を設置し、寄付募集や助成に関する方針を定めるとともに、チラシ等広報媒体の制作や基金周知のためイベント出展に取り組んだ。また、当財団の運営を支える寄付募集キャンペーンを年末に行った。

設立当初から検討してきた助成プログラムを始動したことで体制は整いつつあるが、ファンドレイジングに充てる時間が少ないこと、現在の枠組みと現場のニーズにズレが生じていること、また当財団の認知度がまだまだ低いという課題が出てきている。

次年度は、市民コミュニティ財団として県内での周知を図るとともに、ファンドレイジングに充てる時間を増やせるよう業務を効率化し、また助成プログラムの枠組みを見直していく。

### ■ 資金仲介についての成果数値～寄付・助成プログラムの成果～

平成 25 年度は、新たに頂いた約 245 万円の寄付をもとに「ほっとけない」市民公益活動を支え、地域の課題解決に貢献することができた。

- ・ 事業指定助成プログラムでの助成：約 31 万円（寄付募集助成対象：計 3 事業）
- ・ 地域・テーマ別基金での助成：約 125 万円（1 基金 5 事業）

各助成プログラムと基金への寄付額のうち 10～30%程度（事業による）と財団運営への寄付はそれぞれの助成プログラムや寄付募集の費用としても活用した。

### ■ 公益財団法人への移行

平成 24 年 10 月 10 日に一般財団法人として設立し、1 周年を迎える平成 25 年 10 月 10 日に公益財団法人へ移行した。また、当財団へ寄付された個人・企業が税制優遇を受けられる寄付金控除対象団体となった。

## 【公益目的事業：助成・褒賞事業】

### 1. 事業指定助成プログラム

事業計画に基づき、第1期採択事業の選考、寄付募集を行った。

概要は下記の通り。

- ・ 第1期

助成公募期間：24年11月5日から11月18日

事業指定助成プログラム助成選考会を開催し、助成先を決定。

助成先：特定非営利活動法人子どもNPO和歌山県センター

特定非営利活動法人かたつむりの会

特定非営利活動法人いきいき和歌山がんサポート

#### ■ 寄付金調達アクション

- ・ 事業指定寄付カタログの作成と配布

寄付先を紹介し、寄付募集を行う紙媒体としてカタログを作成し、事業指定寄付採択団体と当財団において寄付開拓に活用、潜在的寄付者層に届くように配布した。

#### ■ 事業指定先NPOのエンパワーメントプログラム

- ・ 採択した全団体に対して「ガイダンス」を行った。

- ・ 寄付募集と事業実施両方の行動計画立案についてハンズオンを含めサポート、アドバイスをを行った。

- ・ 寄付募集に関わる相談対応やフォローアップ（必要に応じて、ハンズオン支援）を随時行った。

- ・ 採択団体が各々作成する寄付募集チラシ等の作成サポートを全事業に対して行った。

### 2. わかやま子ども未来基金

子どもたちや悩める親たちとつながり、継続してサポートし続ける団体を応援し、和歌山から「孤独を感じる」子どもがひとりでも減ることを目指し設置した。

#### ■ 寄付調達アクション

- ・ 授乳服ブランド「ミルフェルム」で有名な有限会社シーエスピーが主催するチャリティイベントに協力し寄付を募集した。

- ・ 株式会社和歌山リビング新聞社主催のLism祭りにおいて、子どもたちが将来の夢

を書いた「未来メッセージ」を募集するとともに寄付募集活動を行った。

#### ■ 寄付基盤づくり、今後の方向性

- ・ 和歌山に暮らす子どもたちが楽器に触れる機会を創出する「楽器を贈ろうプロジェクト」を立ち上げ寄付募集を行う。
- ・ 和歌山県内の子どもたちに関する活動を行う団体を紹介したブックレットを作成する。

### 3. 和歌山県災害復興基金

2011年9月に特定非営利活動法人わかやま NPO センターが「紀伊半島災害復興基金」を設置し、同年12月に30万円の助成を行った。その後も「紀伊半島災害復興基金」への継続した寄付があったが、南海トラフの巨大地震をはじめ、局地的災害を含め様々な災害に対する懸念が高まるなか、基金の規模を拡大し、地域全体で災害に備える機運を構築するため、わかやま NPO センターと協議を重ね「紀伊半島災害復興基金」を当財団に移管し「和歌山県災害復興基金」を2013年12月に新たに設置した。

#### ■ 寄付調達アクション

- ・ チャリティグッズの販売を行った。

#### ■ 寄付基盤づくり、今後の方向性

- ・ 和歌山県紀南地方における広報活動に取り組む。
- ・ 寄付カタログを作成し、潜在的寄付者層に届くように配布する。

### 【公益目的事業：寄付文化醸成事業】

#### 1. 公益活動団体への支援

特定非営利活動法人わかやま NPO センターと連携して約30件の相談に対応し、体制の整備や実務な公益活動団体の総合的な力を高める支援を行った。

#### ■ アクション

- ・ 約30件の相談に対応し、団体のファンドレイズのアドバイスをした。

#### ■ 今後の方向性

- ・ 今後は NPO 法人だけでなくその他公益法人に相談の間口を広げていく。

## 2. 公益参加の促進

チャリティイベントを実施し市民の公益参加の機会を創出した。また約 100 名の相談に応じ、公益参加の支援を行った。

### ■ アクション

- ・ 石橋敬三チャリティライブを開催した。
- ・ 25 年 10 月 26 日に開催されたチャリテ・ド・ママンの企画運営に協力した。
- ・ 26 年 3 月 28、29 日に開催された Lism 祭りに出展した。
- ・ 26 年 3 月 29 日に開催された城下町バルのチケット販売の売上の一部が寄付となる仕組みで、気軽に寄付ができる機会を創出した。

### ■ 今後の方向性

- ・ 新規のチャリティイベントを実施する。
- ・ 定例となっているチャリティイベントを継続的に発展させていく。
- ・ 社会貢献支援センター（仮称）を設立し、市民の公益参加を支援する。

## 3. 調査・研究

市民コミュニティ財団集合研修に参加し、全国各地の市民コミュニティ財団とつながり、互いのノウハウを共有した。

### ■ アクション

- ・ 25 年 10 月 31～11 月 1 日：市民コミュニティ財団集合研修（場所：京都府）
- ・ 26 年 1 月 14～15 日：市民コミュニティ財団集合研修（場所：岡山県）
- ・ 26 年 2 月 1～2 日：ファンドレイジングジャパン 2014（場所：福島県）
- ・ 26 年 2 月 26～27 日：市民コミュニティ財団集合研修（場所：福島県）

### ■ 今後の方向性

- ・ 全国の市民コミュニティ財団と継続的に連携し、先進的なモデルの和歌山への移転、当財団の成果の発信を行っていく。

## 【法人運営（管理）事業】

### 1. 機関会議の運営

(1) 理事会を 2 回開催した。

- ・ 第 1 回理事会（25 年 12 月 20 日）

第2回理事会（26年3月28日）

(2) 監査の実施

・監事が全2回の理事会にいずれにも出席し、業務監査を実施。

## 2. 寄付者等の情報管理 (Donor Relationship Management)

個人情報保護規定等に従い、寄付者等当財団支援者の情報管理を徹底した。また、DM等で寄付者への事業・成果報告、コミュニケーションを円滑に行えるよう、Salesforce社のシステムを試験的に利用し、データベースを運用した。

## 3. ウェブサイト管理

事業の進捗にあわせ、主にFacebookページを利用して寄付募集情報、事業成果、寄付者への報告、メディア掲載情報等を広く伝えることができた。